



福島市内の道路元標



米沢市内の道路元標



道路元標の説明板



道路元標付近の絵地図



道路元標の除幕



除幕式の参列者一同

萬世の大路

第15号
平成26年3月1日発行

発行者
歴史の道 土木遺産万世大路保存会
会長 田畑 實

事務局
万世コミュニティセンター
☎0238-28-5381

「万世大路道路元標」の除幕式

道路元標とは、道路の起点・終点などを示した標示物で、万世大路では起点となる福島県側には設置されていたものの終点の米沢市にはなかったため、土木遺産の認定を受けて広く市民に知ってもらおうと、県置賜総合支庁が相生橋の西側の相生町一丁目（もとの今町、アイディアの泉神社わき）に建立し、平成25年10月3日、関係者約35名が出席し、その除幕式が行われた。

建立された元標は、高さ1.2m、50cm四方の白御影石で、上部に土木遺産の「銘板」を埋め込み、側面には「万世大路道路元標」の文字が刻まれ、万世大路の歴史を記した「プレート」も設置された。

除幕式では、松田一彦置賜総合支庁長が、「明治14年10月3日の明治天皇東北ご巡幸より、132年経過した記念の日に、元標を建立した。市民に親しまれる新たなスポットとして、後世に残していきたい。」と挨拶され、歴史をつなぐ道路元標の完成を祝った。

万世大路は初代山形県令三島通庸によって明治14年に建設された延長48.3kmの近代的幹線道路で、当時の測量・土木技術の水準の高さと米沢・福島間の物流と文化交流・産業振興を知る極めて重要な土木遺産として高い評価をえて、平成24年10月6日土木学会の選奨土木遺産に認定された。